

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「みんながチャレンジ 明日に向かって 本気でGO！」
 ○学ぶ喜びや自分の考えで行動できる楽しさを味わえる子どもを育てます。(知)
 ○心と身体を磨き、めあてに向かってやり抜こうとする子どもを育てます。(徳)(体)
 ○子ども同士や地域での学び合いを大切にすることを育てます。(公)(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

＜問題発見・解決能力＞ ＜心身ともにたくましく生きる力＞ ＜豊かな心コミュニケーション能力＞ ＜持続可能な社会の創造に貢献する力＞	具体化した資質・能力
	自らの課題に気づき、主体的に課題を解決する力 粘り強く取り組む力 想いや考えを伝え合う力 友達と協働しながら、集団で学び合う良さを感じる力

中期取組目標

○子ども一人ひとりの思いを大切に、学ぶ喜びや課題解決の達成感が味わえるよう、授業を充実させます。
 ・体験的な学びを重視し、主体的・対話的で深い学びを通して、主体的に課題解決できる喜びを味わえるようにします。
 ○心と体の健康に目を向け、何事にもあきらめず、ねばり強くめあてに向かってやり抜くことができるよう支援します。
 ・体力の向上と自尊感情を高めるために、ペア学年の活動や学校行事等の取組の工夫・改善を図ります。
 ○対人コミュニケーションの力を高め、豊かな心を育みます。
 ・まちの人とのつながりを意識し、友達との学び合いを通して、人、学校、町を愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①児童の実態を把握し、身に付けさせたい資質・能力を学校全体で共有する。②単元ごとに身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりをする。③主体的、対話的で深い学びを通して、児童の学びの充実を図る。 ④重点研究を切り口として、教師の授業力及び評価力の向上を図り、授業改善に努める。
担当	重点研究推進委員会、教科指導部

学力向上に関わる本校の状況

昨年度と比較してどの学年も学力が上がっている。国語科では、知識・技能の力の定着が図られている。今後はそれらの身に付けた知識や技能を活用して、文章を読み取ったり、自分の思いを表現したりする力をさらに伸ばしていくように指導に当たっていく。算数科では、計算のしかたを考えた、学習したことを日常場面と結び付けて考えたりする力が身に付いてきている。基礎基本の定着を一層図ることでさらに学力の向上を目指していくように指導に当たっていく。生活意識については、昨年度と比較して下がっている。朝食をきちんと食べたり、地域の行事に進んで参加したりする児童の割合が高い。その一方で、横浜市の平均に比べて、家庭での学習時間が少なかったり、1日のゲームの時間が長かったり、読書に進んで取り組んだりしている児童の割合が低い。自分で計画を立てて学習に取り組めるようにしたり、読書に進んで取り組めるよう学級文庫を充実させたり、本を読むことの楽しさを子どもたちが感じられるようにしていきたい。
 本校の児童は教師から指導された通りに行動しようとするが、課題に気付かず指導されたことのみを行う場面が見られる。そこで、自ら課題に気付いて解決しようとする態度を身につけてほしいと考えた。また、「自分がどうしたいか」で行動することが多く、行動に相手意識が見られないことがあるため、自分自身のことだけでなく相手のことも考えられるようになってほしいと考えた。さらに、教師から指導されたことや友達がよいと言っていたことばかりを行動に移すのではなく、自分自身、あるいはグループや学級などの自分の所属する集団の課題を設定し、それを達成しようとする姿勢を身につけてほしいと考えた。
 以上の点から
 ① 自ら課題に気付くこと。
 ② 相手意識をもつこと。
 ③ 自分たちの力で課題を解決しようとする行動すること。
 という目標を設定し、今年度の目標とした。

今年度の目標

自分の考えをもち、子ども同士学び合いながら粘り強く課題を解決しようとする子どもの育成
 ～子どもの「わかった」「できた」を増やす算数科学習を目指して～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>研究主題を考えるにあたっては、①学校教育目標及び昨年度までの国語科の研究を生かしていくこと、②本郷小の子どもたちに身に付けさせたい力、③「算数科」の研究に求めるものの3点を大切に。 普段の授業の中に「つなぐ」ポイントを入れ、児童が「つなぐ」力を様々な場面で発揮できることを目指す。学習活動を重ねるうちに、単元を通して、年間を通して、児童の「つなぐ」力を引き出していく。研究主題の達成に向けていく。 具体的な内容として以下の何点を意識して研究に取り組むこととする。 (1)「わかった」を増やすための手立てを考える (2)「わかった」と「できた」のつながりを考えていく (3)算数科で大切にしたい「つなぐ」視点を生かした授業づくり (4)学習の土台となる日常からの実践</p>	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
心の教育	①特別活動の充実を図り、コミュニケーション能力を向上させ、よりよい人間関係づくりができるようにする。②道徳教育や体験的な活動を通して、他者を思いやる心を育む。③生活科や総合的な学習を中心として、人、学校、地域を大切にすることを育てる。
担当	人権・児童委員会

豊かな心に関わる本校の状況

本校は、地域とのつながりが強く、生活や学習で交流してきた。新型コロナウイルス感染症予防のため、外部とのつながりをもちにくい状況ではあるが、工夫を講じてつながりを大切にしたい。
 挨拶は、校内だけではなく、地域の方々にも挨拶の輪を広げること、挨拶を習慣づけていくことを本年度も課題とする。例年、児童企画委員会による挨拶運動の活動を続けている。
 児童は全体的に落ち着いて生活している。一方で、自己有用感が低いことから自分に自信がもてずに学習に集中できなかったり、友達とトラブルになったりするなど課題のある児童もいる。
 生活意識調査での自尊感情に関する調査結果からは、市平均を下回る結果が見られた。これは、中学校ブロック全体の共通した喫緊の課題である。
 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行えるよう、道徳教育推進教師を中心とした指導体制づくりを行う。自己有用感を感じられるような手立てを行い、自己肯定感を高めていくことを目指す。

今年度の目標

よりよい人間関係を築いていこうとする姿を価値付けするとともに、子どもの自己有用感を育て、自分も友達も大切にすることを育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>・だれもが安心して豊かに生活できるよう、挨拶を通して互いにコミュニケーションを図っていく。朝の挨拶だけではなく、学校中であいさつが飛び交うようなあたたかい雰囲気づくりに努める。 ・授業を通して豊かな自己表現ができる場づくりに努める。見通しをもてる授業、ルールが明確な授業、だれもが参加できる場面のある授業を目指す。 ・ペア活動を通して、異学年同士のつながりや、集団活動を重視することを大切に。年間を通して、ペア活動をする場面を設定する。 ・本郷中ブロックにおいて、連携を密にして情報交換を行う。授業見学を通して、一人ひとりが大切にされる授業の工夫について話し合い、有効な手立てを講じていく。小学校と中学校の職員で合同研修を行う。</p>	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①体力テストを実施後、自分の課題に応じた運動実践に取り組めるように振り返りを行う。②年間を通して縄跳びを全校が取り組めるように委員会と協力して行う。③健康の保持増進を図るために引き続き学校保健委員会の体制を作る。④栄養士の協力のもと、食について理解を深めるとともに、バランスのよい食事を心がける。
担当	体育科、養護教諭

健やかな体に関わる本校の状況

・コロナ禍において子どもたちの運動週間は減少していると考えられる。体育の授業をする上で特に、持久力や瞬発力などは大きく落ちているように感じる。
 ・地域には外遊びができる公園や広場が多数にあり、放課後には男女、学年を問わず子どもたちの姿がある。
 ・休み時間は校庭で体を動かす児童の姿が多く見られる。また、放課後の校庭開放も行うことになったため、運動時間は以前より高くなるのではないかと考えられる。
 ・令和4年度の新体力テストの結果から、ソフトボール投げ・シャトルランは各学年、市平均を上回っている。これは普段の生活の中で十分な運動時間がある結果と思われる。ドッジボールや鬼ごっこなど休み時間に活動することが結果に繋がっていると考えられる。一方で、長座体前屈など柔軟性については引き続き課題が見られる。握力に関しても、全学年が市平均を下回っている。
 ・R4年度は、「呼吸と姿勢」の関係について講話やロールプレイを通して実施した。R5年度も引き続き「呼吸と姿勢」について実施を行う予定。生涯を通じて病気の予防に取り組むなど健康に対する意識を高めた。

今年度の目標

基本的な生活習慣に関する活動を全校で取り組む。また、運動週間を実施することで児童が運動に親しめるような活動を行っていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>・保護者の理解のもと生活リズムを整え、体力の二極化を改善できるように努める。1年生から、体力・運動能力の向上を図るきっかけとなる「体づくり運動」の指導を工夫して、柔軟性、筋持久力を改善する授業に取り組んでいく。活動終わりにストレッチ、固定器具を利用する活動を多用する等、柔軟性と筋持久力の向上を図っていく。 ・運動委員会、保健委員会を中心として運動に親しむ習慣に取り組む。 ・体力テストの結果等を保護者と共有するなど、家庭や地域と連携して体力の向上、生活習慣の改善を図る。 ・栄養士と連携を図り、保健の授業の中で、生活習慣病や栄養などの授業展開を行い、一人ひとりが今の食生活を見直せるようにしていく。</p>	